

218. 平成5年度滋賀県下における 発掘調査の紹介(その1)

平成6年3月4日、恒例の県下発掘調査スライド大会が滋賀県埋蔵文化財センターで実施されました。

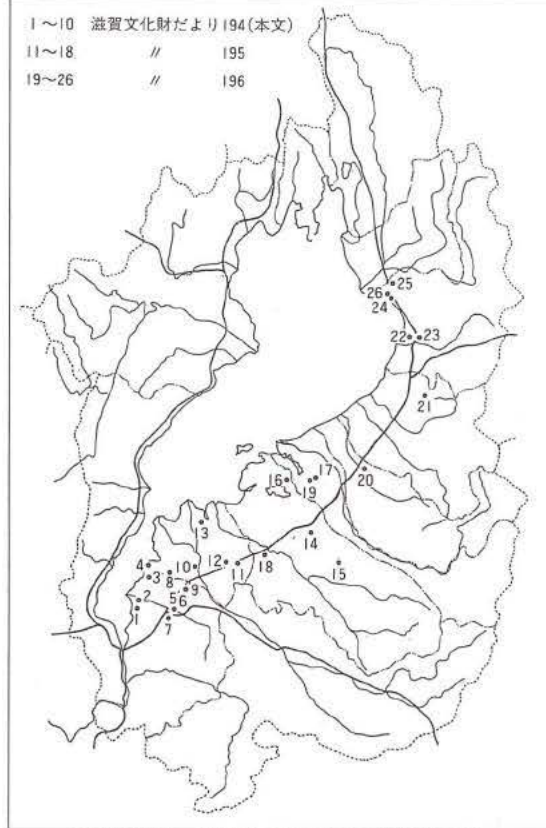
県下では本年度も、多くの発掘調査が行われ、貴重な成果を上げています。ここにその成果の一部を紹介いたします。

今後の参考として活用いただければ幸いです。尚、御多忙の中、御協力いただきました方々には厚く御礼申し上げます。

1. 古墳時代及び平安時代にかけての諸遺構を検出 草津市矢橋町 狭間遺跡

狭間遺跡は、矢橋の帰帆で有名な矢橋町の北東に位置し、従前、遺物散布地として周知されてきた遺跡である。今回、民間開発に伴い、717㎡を調査対象として調査を実施した結果、溝跡、土坑、井戸状遺構、池跡等を検出し、当該遺跡が古墳時代及び平安時代を中心としたものであることが判明した。

このうち古墳時代の遺構としては、幅2m、深さ1m弱の溝跡をはじめとして、直径約4m、深さ1m弱の井戸状遺構、古式土師器を内包した土坑などがある。

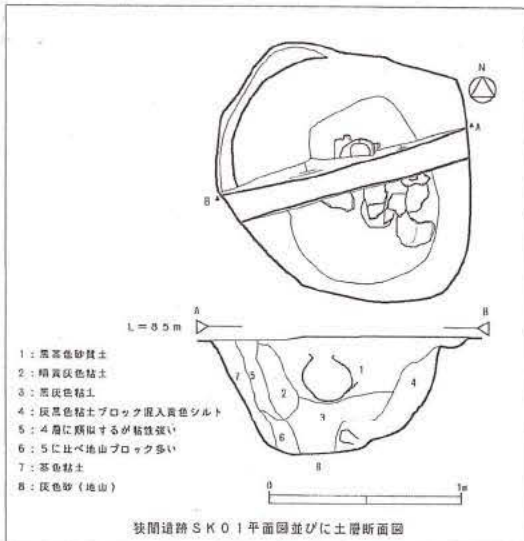


しかし、建物跡は検出できなかったことから、当該地周辺に集落が遺存する事が予想される。また平安時代の遺構としては、2×2間の掘立柱建物1棟の他、棚列、土坑、溝跡等がある。

出土遺物から古墳時代並びに平安時代両期における当該地での人々の活動は短期的であったことが窺えるが、これは湖辺に位置する当該遺跡が、絶えず湖水変位や河川活動等の厳しい自然環境に左右された結果と理解できるのではなからうか。

なお、調査区東端において検出した江戸時代の所産と思われる池状遺構の上には、芦浦道と呼称する近世の街道が存在しているが、少なくとも当該地における現在の街道位置は、池状遺構廃絶後の所産であることが判明した。

(草津市教育委員会 小宮猛幸)



2. 古墳時代後期の方墳等検出

草津市御倉 御倉遺跡

御倉遺跡は、草津市南西部の湖岸近くに位置する遺跡で、以前より草津川改修事業により調査が進められてきている。今年度は、調査残地となっている新草津川左岸側の浜街道より上流の部分8,800㎡を調査対象として発掘調査を実施した。

今回の調査区は、中央部に旧北川河川敷が存在するため、その部分を除外して調査を行った。調査の結果、旧河川が旧北川河川敷の幅を大きく上回って広がっていることが判明し、遺構面の残存は調査対象区域の北東部分に限られた。

この遺構面から検出された遺構は、以前の調査で確認されていた遺構に連続するもので、調査区西側では古墳時代前期の溝跡等、東側ではかつての調査で検出された古墳群、方形周溝墓群の一部と考えられる方墳1基、そして調査区全域にわたって平安時代の柱跡、溝跡等が検出された。

調査区東側で検出された方墳は、かつて北側の調査区で確認された古墳の南半分で、一辺16mの規模を有する。古墳を取り巻く周溝は、幅4～5mであるが、残存状況が悪く浅い。周溝内より6世紀前半代の遺物が出土した。

調査区西側では、以前の調査で確認された例と同様の古式土師器を多量に出土する溝跡が検出された。また、以前の調査ではこの辺りを中心に古墳時代のものと考えられる柱穴群が密集して検出されたが、今回の調査区ではあまり認められなかった。

今年度の調査では遺構の検出された範囲が限られていたが、北川旧河道の北に広がる遺構の南限を掌握することができた。

(草津市教育委員会 藤居 朗)



遺構検出状況(東より)

3. 直径約36mの円墳を検出

草津市芦浦町 芦浦遺跡



古墳検出状況(北から)

芦浦遺跡は、県史跡芦浦観音寺と主要地方道大津守山近江八幡線(通称浜街道)との間に位置し、北側は堺川を挟んで守山市と接している。周辺には、欲賀西遺跡をはじめ下物遺跡・花摘寺廃寺・檜皮堂遺跡・印岐志呂神社古墳群などの多くの遺跡が知られている。

今回、滋賀県住宅供給公社による住宅団地が計画されるにあたって試掘調査を行ったところ、事業対象地のほぼ全域にわたって遺構が広がることが明らかになったため、引き続き発掘調査を実施することになったものである。

平成4年度の調査では、堺川の旧河道と思われる自然流路跡、鎌倉時代を中心とする掘立柱建物群・井戸・土坑などが検出されている。遺跡の中央部から南東部分にあたる平成5年度の調査区では、弥生時代中期の溝などの他に、最低3基の古墳が確認されるに至った。盟主墳と目される1号墳はほぼ円形を呈し、墳丘部は裾からの直径約36mを測り、幅7m前後、深さ1m前後の周濠を巡らせている。濠の部分を合わせた規模は、南北約47m・東西約45mにおよぶ。周濠からは、円筒埴輪や形象埴輪の破片が少量出土しており、その年代観から本古墳はおおむね5世紀前半から中頃までに築造されたものと推測される。2号墳は、1号墳の西南方約30mを隔てた地点に位置し、直径17m以上の円墳と見られる。また3号墳は、2号墳の東に接して営まれた、南北約11m・東西約11.5mのほぼ正方形を呈する方墳である。2号墳・3号墳の周溝あるいはその周辺からは、5世紀末から6世紀初頭頃に属する須恵器の器台・壺・高杯・杯などが出土している。いずれの古墳も墳丘部分については、少なくとも鎌倉時代頃までには完全に削平を受けていたものと見られる。

古墳の築造された地点は、堺川が形成する自然堤防上の微高地にあっている。南方に位置する印岐志呂神社古墳群などとの関連、被葬者の政治的・経済的基盤、対応する居住域の検討などについては今後の課題とす

る他ないが、その背景に琵琶湖岸や堺川を介した水運に関与する勢力の存在を考慮することも必要であろう。

(財)滋賀県文化財保護協会 坂梨咲子・田路正幸)

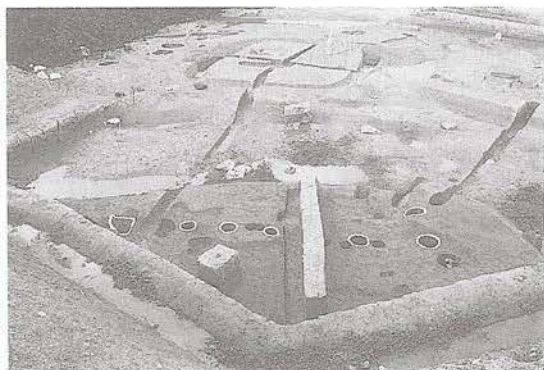
4. 草津市烏丸崎遺跡の調査

おろしも からすまぎき
草津市下物町 烏丸崎遺跡

烏丸崎遺跡は草津市下物町地先の烏丸半島の基部から半島先端に広がる遺跡である。これまでも数次にわたる調査がなされており、弥生時代中期中葉から後葉にかけての方形周溝墓群や弥生時代前期末の玉造工房跡等が検出されている。今年度は、一昨年度に方形周溝墓の周溝中より木偶が出土し注目を集めた調査地の南西隣を調査した。

今回の調査では弥生時代中期中葉（第Ⅲ様式期）の方形周溝墓7基・大溝1条、弥生時代中期前半（第Ⅱ～第Ⅲ様式期の遺物包含層、弥生時代中期初頭（第Ⅱ様式期の掘立柱建物1棟・土坑17基を検出した。その他にも中世の遺物包含層・ピット等を検出しているが、ここでは弥生時代の遺構・遺物について述べる。

盛土以下を掘削していくと、中世の遺物包含層である黒色スクモ層があり、それを除去すると方形周溝墓群が現われる。方形周溝墓はマウンドの遺存状況の良好なものが7基検出され、1辺が6.5～8mの小型のもの5基と、1辺10mを超える大型のものが2基ある。中でも5号墓は1辺10m以上、周溝の幅約6m、周溝底からマウンド頂までの高さ1.5mを測るものである。供献土器は2号墓の周溝からのみ出土した。主体部は7基のうち4基から検出され、2号墓は東西主軸のものが1基、3号墓は北西～南東主軸のものが2基並列、4号墓は北東～南西主軸のものが2基並列、6号墓は北東～南西主軸のものが1基である。いずれも深さ約10～20cm程度で遺存状況は良いとは言えない。また、主体部からは木棺の痕跡が検出されなかったことから、方形の土坑に埋葬していたと思われる。この周溝墓群の北東からは幅約3m、深さ約50cmを測る大溝が検出された。この大溝より北側には造墓された形跡が認め



下層 掘立柱建物



方形周溝墓群と大溝

られないことから、墓域の北限を区画する溝と考えられる。

第Ⅲ様式期の遺構は第Ⅱ～Ⅲ様式期の遺物包含層上に営まれている。この結果周溝墓の周溝中より当期の土器片をはじめ玉造関係遺物等が多数出土した。また、遺物包含層掘削中にも、竜王町堤ヶ谷遺跡出土の磨製石剣に類似したものや、土器が多数出土している。

先述の遺物包含層の下からは第Ⅱ様式期の掘立柱建物1棟、土坑17基を検出した。掘立柱建物は桁行4間（約4m）であるが、梁間は方形周溝墓の周溝に遺構面が切られていたため1間しか検出できなかった。土坑は大きなもので直径2～4m、小さなもので直径1m前後のものがあり、数基より第Ⅱ様式の中でも古い様相を示す土器が多数出土した。

(財)滋賀県文化財保護協会 岩橋隆浩)

5. 井戸から須恵器把手付長頸壺が出土(栗東町)

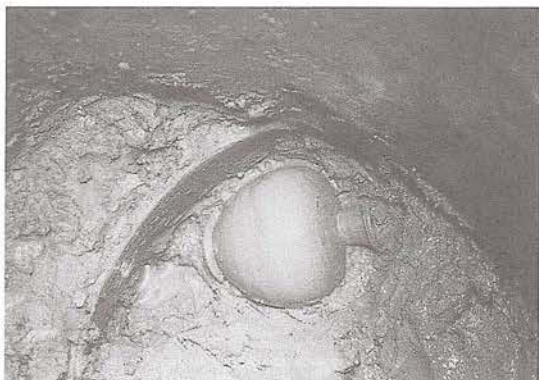
てはら てはら
栗東町手原 手原遺跡

J R草津線手原駅周辺の手原遺跡では、瓦や掘立柱建物群がみつまっていることや、周囲の条里地割とは異なる正南北方向の地割が遺存していることから、寺院や官衙といった性格が考えられている。

今回、8世紀末頃～9世紀の井戸が見つかったのは、遺跡の中でも東寄りの地点である。調査区の付近では、過去の調査で石帯が出土し、総柱建物が見つまっている。

井戸は掘形の直径が270cmで、検出面下約110cmで枿が検出された。この枿は長さ3m、径約70～80cmの丸太材を3ツ割りにし、割りぬいて、組みあわせたものである。この枿のすぐ外側には四本の杭がたてられていた痕跡があり、方形の上部構造があったものと考えられる。割りぬきの枿の下には、さらに径65m以上の曲物枿が据えられていた。

曲物枿内からは、須恵器把手付長頸壺・杯身が出土した。割りぬきの枿内は腐植土および、礫で埋まっており、須恵器広口壺、杯身、斎串、曲物などが出土し



井戸出土 須恵器把手付長頸壺

ている。枠の上はレキ層が堆積しており、意図的な埋め戻しによるものと思われる。このレキ層からは墨書土器（「曾」・灰釉陶器）がみつかった。

出土した遺物のうち、曲物枠内からみつかった須恵器把手付長頸壺は、器高21.2cm、体部径17.2cmで、うっすらと自然釉のかかる肩部に、一箇所把手をつける優品である。

本調査区では、ほかに掘立柱建物も出土している。建物はほぼ真北方向を示すものである。手原遺跡では官衙的性格が考えられる企画性の高い建物群が知られるが、今回の調査成果は、これら建物群の構成やその広がりを考える上で、ひいては栗太郡の律令期を考える上で、貴重な資料となる。

（駒栗東町文化体育振興事業団 雨森智美）

6. 官営工房の一端を確認

栗東町手原 手原遺跡

手原遺跡は、JR草津線手原駅周辺に存在し、近世東海道の道筋にあたる。このあたりは、湖南平野一帯に残存する条里とは異なった正南北方向の地割が残存していることから、従来より古代寺院や官衙の存在が予想されていた。

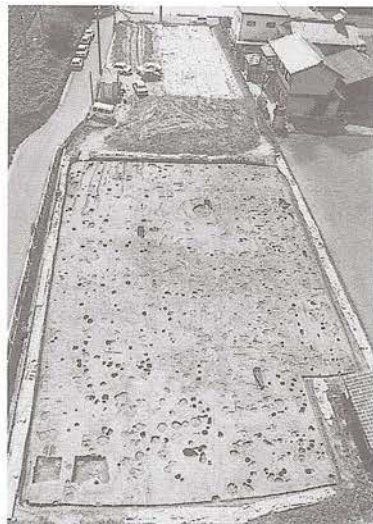
今回の調査は倉庫建設に先立ち、1993年2月から同年7月にかけて行なわれた。確認した遺構は、掘立柱建物30棟以上をはじめ、井戸、炭化土坑、耕作痕等がある。時期は、概ね以下のように3時期に分けることができる。

I期 奈良時代後半～平安時代前半（8～9世紀）

II期 平安時代中頃（10～11世紀）

III期 平安時代後半～鎌倉時代前半（12～13世紀）

T1（西側）は、奈良時代中頃から後半の倉庫群が確認された1983年度調査区の南側にあたり、ここでもその続きと思われる倉庫を中心とした10棟以上の建物が確認されている。T2（東側）では、I期前半と思われる比較的大型の建物が集中し、調査区の東端に存



調査区全景（東から西を望む）

在する溝からは、多量の炭に混じってふいごの羽口片やガラス滓と思われるものが検出された。また、隣接して製鉄や铸造等の生産遺跡によくみられる、炭が堆積した土坑が存在したことから、調査地の南東方向に官営工房が広が

っていた可能性が想定できる。II期では、井戸を囲んだ4棟の建物が確認されており、井戸からは、祭祀の跡がうかがえる燃えさしや墨書土器等が出土している。

手原遺跡では、これまでの調査で企画性のある倉庫群や、郡衙の正庁にみられるような大型の建物が確認されていたが、地区によって性格の異なる施設が分けられていたことが、今回の調査でも一層明確となった。特に南東隅に存在したと認定される官営工房については、今後注目すべき点のひとつである。

（駒栗東町文化体育振興事業団 近藤広）

7. 後期古墳を9基調査

栗東町下戸山 和田古墳群

野洲川左岸の沖積地を一望する独立丘陵安養寺山一帯には、墳長98mを測る帆立貝形古墳の椿山古墳や初期馬具が出土した新開1号墳をはじめ、多くの古墳が分布する。和田古墳群は、その安養寺山の西麓、標高117m～127mに分布する後期群集墳である。古墳群整備のため、安養寺山古墳群調査整備委員会により発掘調査が実施された。

調査された古墳9基はすべて円墳で、うち最高所に築れた1号墳が最大規模で径17m、高さ3.3mを測る。一方、最も小規模な4号墳は径8mである。主体部は竪穴系横口式石室8基と横穴式石室1基で、横穴式石室を内部主体に採用した8号墳は、古墳群中最も新しい時期の築造である。竪穴系の石室は、玄室に対して羨道が短く、しきり石や傾斜により段をもたせ羨道を高くしている。玄室床面には、礫床をもつものもたないものがある。石室規模は、1号墳で玄室長3.6m、幅2.1m。羨道長1.2m、幅0.8mで、長さ3.2mの墓道がつく。



8号墳遺物出土状況

各古墳の石室遺存状況は劣悪であるが、比較的豊富な遺物の出土をみた。中でも注目される副葬品に、1号墳の金製耳環、鉄地銀張環頭大刀柄頭片、鉄地金張無脚辻金具、中央部イモガイ製雲珠。8号墳の銀装大刀2振り(うち1振りは柄に銀線を巻く)、金銅製空玉6点、銅鈴、轡(素環)、11号墳の轡(楕円形鏡板1対)、楕円形杏葉3点、雲珠1点、辻金具8点(これらの馬具は、いずれも鉄地金銅張)。その他各古墳からも各種装身具、武具、馬具、工具、土器の出土をみた。また、1・2・5・10号墳周辺では墓前祭祀に関わる須恵器、土師器高杯、土玉などの供献がみられた。これら出土した須恵器の時期は、6世紀中頃から7世紀前半頃に求められる。

1号墳出土のイモガイ製雲珠の分布は朝鮮半島と九州に集中しており、近畿地方では他に類例をみない。また、1号墳と11号墳の礎床面には雲母片が多数みられるなど、石室構造と合わせて渡来系氏族との関連を想わせる内容である。さらに、この地は在地の有力豪族である小槻山君の本拠地でもあり、その関係も無視できない。

(財)栗東町文化体育振興事業団 佐伯 英樹)

8. 縄文時代中期末の竪穴住居(第13次調査)

守山市大門町 下長遺跡

守山市古高町から大門町にかけて広がる下長遺跡は、工業団地造成工事に伴い、過去12回にわたり約50,000㎡が調査されている。これまでの調査で、遺跡のほぼ中央を流れる旧河道の両岸に形成された微高地に集落遺跡が立地していることがわかっている。微高地からは縄文時代晩期から近世にかけての遺構・遺物が検出されているが、特に古墳時代前・中期の遺構密度や遺物量が多く、この時期に集落の盛期がピークに達したことが想像される。今回の調査地は下長遺跡の西端に位置し、民間の工場用地造成工事に先立ち、約5,000㎡を調査した。



縄文時代中期末の竪穴住居

調査の結果、上層で古墳時代後期と平安時代後期の溝、それに時期不詳の掘立柱建物3棟、下層で縄文時代中期後半～末にかけての竪穴住居や土坑・溝を検出した。SH-1は直径4.5mの円形竪穴住居で、県内でも珍しい石囲炉が住居中央やや西側につくられていた。石囲炉はこぶし大の河原石を14個、50cm程の大きさに方形に並べたもので、北西端が少し開いていた。遺物は炉のすぐ東側の土坑から深鉢の破片がまとまって出土した他、床面や埋土中から土器と磨石・石鏃などがみついている。縄文時代中期末の年代が考えられる。

下長遺跡の周囲1.5km以内には今宿町経田遺跡、古高町古高遺跡、草津市北太田遺跡、栗東町霊仙寺遺跡など縄文時代中期の遺跡があり、移動生活を常とする縄文人のテリトリーを考えるうえで興味深い。

(守山市教育委員会 小島睦夫)

9. 弥生時代後期の大型建物(第28次調査)

守山市伊勢町 伊勢遺跡

伊勢遺跡は守山市の南部、伊勢町集落を中心に広がる集落遺跡である。これまで28次におよぶ調査が行われ、縄文時代後期から近世にかけての遺構・遺物が検出されている。今回の調査は土地区画整理事業に伴うもので、遺跡が立地している微高地の南辺とその南側の低地部の約9,000㎡を対象としている。

これまでのところ、弥生時代後期の大型建物1棟(SB-1)と土坑、古墳時代後期の溝、鎌倉時代の掘立柱建物・土坑・溝などが検出されている。このうちSB-1は南北に長軸をとる5間×1間の独立棟持柱付建物である。柱間距離は桁行9.1m、梁行4.6mで、床面積は約42㎡を測る。妻柱の外側2.3mに棟持柱、建物の中央には束柱がある。柱穴は外側に傾斜をつけており、柱を落とし込みしやすいつくりになっている。桁側柱穴は大きいもので1.8m×80cm、小さいもので90cm×70cmを測り、西側桁列に比較して東側桁列、さらに棟持柱、束柱は小振りである。柱根はヒノキ材で、直径25～35cm(断面観察から直径30～40cmと推定)、長



独立棟持柱付建物(SB-1)

さ50～80cm程が残存していた。遺物は柱穴掘形から弥生土器の小破片が少量出土している他、一部の柱穴から炭化米が少量出土している。

伊勢遺跡の弥生時代後期の集落は東西500mを越える規模で、平成4年に発見された大型建物(東側約70mの地点にある。)と今回報告した大型建物はその中心に位置している。このことから一帯が集落の重要な区域であったことが想像される。

(守山市教育委員会 小島睦夫)

10. 「大水路を発見」

野洲町野洲 おすのわきがきん 野洲川左岸遺跡

平成3年から続けられていた工場造成に伴う発掘調査の5年度分で古墳時代初頭から中期の水路、自然水路を検出した。前回までの調査でも水路が検出されており、それらと接続すると確認された。また方形周溝



堰の検出状況

墓、円墳、住居跡などは、今回検出されず集落外と考えられる。

遺構は調査区中央に東西に流れる大水路を中心に南北に流れる小水路が流れ込んでいる。大水路の幅約7～10m、深さ約2m、断面形はほぼV字状を呈する。遺物は古墳時代前期の二重口縁壺、小型壺が出土、多層からは、5世紀中～後半の須恵器杯が出土しており、4世紀～6世紀まで水路として利用されていたと考えられる。また水路の合流点からは、多くの木材や木皮が横一列に検出されており、堰や築が施されていたと考えられる。また小水路との合流点では、建築材(ホゾ穴付柱材)を転用による堰、高さ160～180cmが施けられており、水を止めている。

他の遺物では、縄文時代晩期の土器細片、石鏃、石斧片が遺構面で発見された。

(野洲町教育委員会 杉本源造)

刊行報告書案内

- 1) 梅ノ木遺跡発掘調査報告書
- 2) 一般国道161号(湖北バイパス)建設に伴う今津町内遺跡発掘調査報告書—高田館遺跡—
- 3) 尼子遺跡〔ほ場整備19-2〕
- 4) 堀部西・堀部遺跡〔ほ場整備19-2〕
- 5) 森西城遺跡・十禅寺遺跡〔ほ場整備19-4〕
- 6) 大手前・御所内遺跡〔ほ場整備19-7〕
- 7) 慈恩寺遺跡・金剛寺遺跡・後川遺跡〔県営かんがい排水8-2〕
- 8) 錦織遺跡—近江大津宮関連遺跡—
- 9) 松原内湖遺跡発掘調査報告書II
- 10) 五条・南山田遺跡、西中道・太田氏館〔ほ場整備19-5〕
- 11) 高橋南遺跡II、宮ノ前遺跡〔ほ場整備19-1〕
- 12) 鴨田遺跡発掘調査報告書II
- 13) 南桜北遺跡、上代遺跡・北遺跡〔ほ場整備19-9〕
- 14) 錦織・南滋賀遺跡発掘調査概要VII
付：近江国庁周辺遺跡調査概要—
- 15) 大手前・御所内遺跡〔県営かんがい排水8-3〕
- 16) 紀要6号
- 17) 常衛遺跡〔県営かんがい排水9-3〕
- 18) 樋之口・野田代遺跡、古堂遺跡〔県営かんがい排水9-2〕
- 19) 一般国道161号建設に伴う新旭町内遺跡発掘調査報告書V—針江川北(II)遺跡・吉武城遺跡—
- 20) 欲賀西遺跡発掘調査報告書
- 21) 観音寺城下町遺跡〔ほ場整備20-2〕
- 22) 滋賀文化財だより合本1 (No.1～No.50)
- 23) 滋賀文化財だより合本2 (No.51～No.102)
- 24) 滋賀文化財だより合本3 (No.103～No.150)
- 25) 近江の文化財教室合本1 (No.1～No.50)
- 26) 近江の文化財教室合本1 (No.51～No.100)